

## (5) 化学工業

### ◆ 概要

平成22年工業統計調査結果報告(従業者4人以上の事業所)によると、事業所数は55所で、前年比較では2所増加(対前年増加率3.8%)している。従業者数は2,299人で、前年比較では51人の減少(同△2.2%)となっている。製造品出荷額等は764億4百万円(同9.2%)で、大きく増加している。

京都市の製造業に占める化学工業の割合は、事業所数が2.0%、従業者数は3.5%、製造品出荷額等は3.5%となっている。

平成13年からの推移を見ると、事業所数、従業者数ともにほぼ変動がない。製造品出荷額等も平成14年以降横ばいに推移していたが、平成22年は環境配慮型製品の開発や海外への進出による効果などから出荷額が大幅に増加した〔表Ⅱ-3-5-1、図Ⅱ-3-5-1〕。

### ◆ 市内の化学工業の特色

化学工業の製造品出荷額等を産業細分類別に見ると、従業者数の構成比では大きな割合を占める界面活性剤製造業(石けん、合成洗剤を除く)の数値が公表されていないが、それを除くと他に分類されない化学工業製品製造業の187億95百万円(対前年増加率△0.1%)、その他の有機化学工業薬品製造業の132億28百万円(同61.4%)の順となっている〔表Ⅱ-3-5-2〕。

京都市は、地場産業として西陣織や京友禅などの染織業が古くから盛んで、その関連産業として紡糸・紡織の精練、染色助剤及び仕上剤として利用される界面活性剤(石けん、合成洗剤を除く)等の化学工業製造業も市内に多く立地してきた経緯があり、市内に本店を構える上場企業は現在3社存在している。近年は、製品使用の用途・分野を広げたり、環境に配慮した製品の開発などが進められており、また、新たな市場獲得のため海外へ進出する企業も多く見られる。

表Ⅱ-3-5-1 化学工業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移

(単位：所、人、百万円)

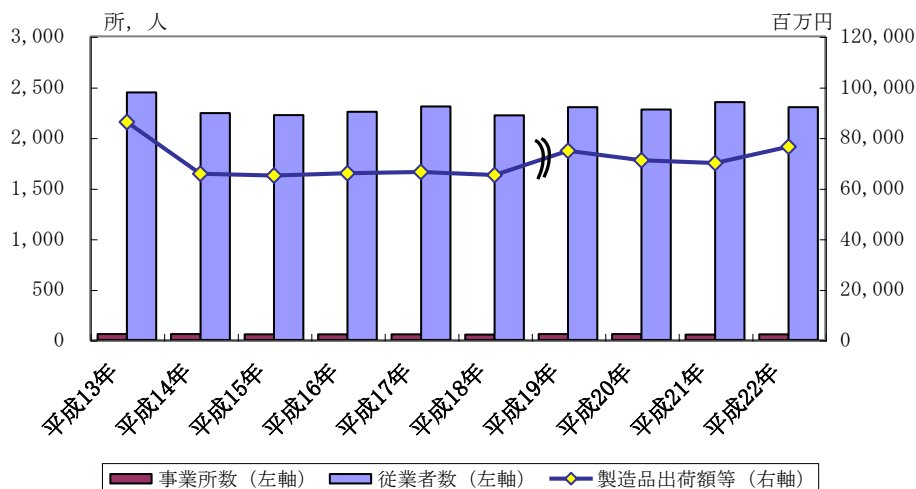
	事業所数	従業者数	製造品出荷額等
平成13年	58	2,446	86,184
平成14年	58	2,242	65,658
平成15年	56	2,222	64,986
平成16年	55	2,255	65,889
平成17年	55	2,308	66,377
平成18年	52	2,219	65,187
平成19年	57	2,301	74,758
平成20年	57	2,278	71,052
平成21年	53	2,350	69,957
平成22年	55	2,299	76,404

資料：京都市総合企画局「平成22年工業統計調査結果報告(従業者4人以上の事業所)」

注：平成19年調査で調査項目を変更したため、製造品出荷額等は前回の数値とは接続しない。

注：平成20年で一部産業分類の改定が行われたため、前年調査の数値とは接続しない。

図Ⅱ-3-5-1 化学工業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移



資料：京都市総合企画局「平成22年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」

注：平成19年調査で調査項目を変更したため、製造品出荷額等は前回の数値とは接続しない。

注：平成20年で一部産業分類の改定が行われたため、前年調査の数値とは接続しない。

表Ⅱ-3-5-2 化学工業の主な産業（細分類）別事業所数、従業者数及び製造品出荷額等

(単位：所、人、百万円、%)

	事業所数		従業者数		製造品出荷額等	
	数	構成比	数	構成比	額	構成比
化学工業	55	100.0	2,299	100.0	76,404	100.0
他に分類されない化学工業製品製造業	16	29.1	599	26.1	18,795	24.6
その他の有機化学工業製品製造業	6	10.9	351	15.3	13,228	17.3
環式中間物・合成染料・有機顔料製造業	5	9.1	322	14.0	7,431	9.7
頭髮用化粧品製造業	3	5.5	93	4.0	2,811	3.7
その他の無機化学工業製品製造業	3	5.5	41	1.8	1,379	1.8
界面活性剤製造業（石けん、合成洗剤を除く）	2	3.6	235	10.2	χ	χ
医薬品製剤製造業	2	3.6	102	4.4	χ	χ
プラスチック製造業	2	3.6	35	1.5	χ	χ
生薬・漢方製剤製造業	2	3.6	33	1.4	χ	χ
仕上用・皮膚用化粧品製造業（香水、オーデコロンを含む）	2	3.6	21	0.9	χ	χ

資料：京都市総合企画局「平成22年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」

なお、細分類については主なものを取り上げている。

注：該当事業所が特定されるおそれのある箇所は、「χ」で表記。